

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for O173501271, 医療法人社団 上田病院, グループホーム あいあい 桜ユニット, etc.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居する皆さんは美園・若草・新生・鷺別地域の方が多く入っています。3年以上コロナ禍の為外部の方との関りができない状況であり、運営推進会議もできていない状況でしたが、令和5年6月より再開することが出来ました。...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022...

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4, etc.

事業所はJR鷺別駅が最寄りのバス停から徒歩圏内、幹線道路にも近い住宅街に位置し、交通アクセスが良好で訪問しやすい環境に在る。コロナ禍で感染症防止対策を講じるために、外部との交流を暫く自粛していたが、緩和政策に準じて、対面での運営推進会議の開催や町内の祭りに利用者と共に参加するなど、町内会とも良好な関係が継続され、徐々に地域活動や地元との交流を再開している。...

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62) regarding staff, user participation, and support.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念・ユニットの理念について職員が共有し、入居者様各々が生活の質を維持向上できるように努めている	法人が目指すサービスの基本姿勢は運営理念とケア理念に示し、要所への掲示や携帯で職員への浸透を図っている。理念を徹底する観点からユニットごとに年間目標を作成し、質の高いケアの実践に生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、情報共有を行いながら、地域に密着した運営を心掛け、町会との行き来を大切にしている 回覧板の情報などで町会の動きを確認している	町内会行事が徐々に開催され、利用者は祭りや文化展への出品準備など、地域活動に参加して途絶えていた交流を育てている。事業所も介護相談や資源回収支援、専門学校実習生、音楽療法実習生の受け入れを積極的に担い地域との相互関係を着実に築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	R5. 6頃から徐々に地域内の行事などに参加できるようになってきた。月1回の資源回収など貢献できることは積極的に行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5.6からに地域の方々が集まり運営推進会議を会議室にて行うことができ、取り組みや、報告など直接お伝えすることが出来た	書面会議を継続していたが、この6月より対面となり、市職員、地域包括職員、町内会委員の参加を得て開催し、利用者状況、行事、研修、事故等の報告や取り組みを議題とし、意見や情報交換を行い運営に生かしている。今後、家族、消防職員、町内会長等の参加も呼びかけ、より双方向的な会議になるよう検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明なことや、報告などこまめに実施している コロナ禍では感染予防の観点から、不明な事は適宜確認しており、より良い協力体制を築けている	運営推進会議は基より介護認定更新時、運営指導等で行政関係者とは事業所の現状を共有し、課題が生じた場合は解決に向けた意見や提案を得て、運営やケアに生かしている。日頃から電話やメールで関わりを持ち、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待について毎月ユニット会議の中で、事例検討を行い、多様な事例をもとに改善策などを話し合っている また毎回レポートにまとめて提出している 日頃のケアにおいての課題を抽出し早期発見早期検討へ取り組んでいる	身体拘束廃止や虐待防止に向けた指針に基づき委員会を設け、運営推進会議時に開催し全職員に周知を図っている。特に毎月のユニット会議では事例課題を検討し、問題点・原因・改善策について職員はレポートを作成、適切なケアを模索しながら拘束をしない支援に取り組んでいる。メンタルヘルスカンファレンスを実施し、職員の心の健康維持に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の勉強会を実施し、身体拘束を含めて職員を交えてさらに理解を深め、未然に防ぐことができるように日々話す場を設けている 現在は身体拘束しなければならない入居者はいません		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見制度の利用者はいませんが状況により活用ができるように勉強会をおこなっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては時間をしっかりとって十分な理解が得られるように努めている 事前にお知らせすべき要点をまとめて用意しており、再度チェックするようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族などがホームに集まることはコロナ収束直後の為積極的にできないが、月に数回の電話連絡や面会時に近況を話す機会をできるだけ設けている	家族の心情を察し、コロナ禍での面会も様々な工夫し要望に応え、電話や手紙も含めて、利用者、家族、職員との繋がりが途切れないよう努め、意見、要望を汲み取っている。写真満載のあいあい通信や個人通信、生活状況は月次報告書で伝え、受診前後にも連絡を入れ安心につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々のミーティングの際に都度反映させている	法人は職員の就業環境の整備に努めており、日々の申し送りや月例のユニット会議を始め、年2度の個人面談やメンタルヘルスカンファレンスで運営に関する意見や提案、個人の要望などに耳を傾け、運営に反映している。職員は各種研修会や役割を担うことでスキルを高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や状況を把握し面談を適宜行いながら業務改善計画を行い仕事内容、役割、環境調整、勤務調整などに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に業務内容を精査し勉強会や会議の場で検討を行い、考える幅が拡充するようにしている 介護福祉士対策チームをつくり、勉強会を実施し資格取得に向けて動いている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ収束後ではあるが、まだ外部との直接の交流は出来ていない リモートでの講習受講は積極的に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談を重ね、困っていることや心配なことなどを聴き取り、言葉から探り、また例題等を提示しわかりやすく説明をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談を重ねて生活、親子関係他プライバシーに関することを伺うことになるので配慮しながら安心して頂けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初からすぐにサービスが開始されるように情報収集を行い、支援の内容を具体的に抽出しておくようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを大切にしながらも踏み込み過ぎず、互いに歩み寄ることのできる関係性を築けるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や周囲の関係者と相協力しつつ、共に支える関係づくりに努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から生活歴中心に情報を収集し今までの関係性が維持できるような環境づくりを意識している	コロナ禍後の自粛緩和で事業所内での面会も条件付で実現しており、大切な人との交流が継続出来るように、手紙や電話も取次ぎ支援している。要望に応じて車で自宅を訪問し、日常の会話から昔が蘇り楽しさと懐かしさを共有するなど、回想の力も取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性など見極め、互いに共助の関係づくりができるような環境づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、その後の入退院時などに必要に応じて連絡をとり円滑に経過するようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り意向に沿って支援をしている 困難な場合は家族や、他の支援者からの情報を共有し、多方面からの可能性を視野に入れて検討している	意思疎通が可能な場合は、職員の問いかけや利用者同士の会話から今の気持ちを推し量り、困難な場合は表情、仕草、行動に注視し、家族や関係者からの情報を手掛かりに、五感を働かせ多面的な視点で思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好むこと、嫌な事、これまでのサービスも決めつけことなく、本位であるかどうか、見極めるように話し合っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の自立を考え、できること、出来ないことをしっかりと見極め、時には頼りたい思いや甘えたい思いなどを大切に関係づくりに努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向と実情とはズレのある場合がある為、よりよい妥協点を考え納得した介護計画となるように努めている ブレインストーミングや、連絡ノートを活用し職員の気付きを反映している	管理者を中心にモニタリングで知りえた情報を基に、職員、医療従事者の意見や情報に加え、理学療法士によるリハビリ評価も行き、重度化防止、身体機能向上を資する個別のプランを定期3か月ごとに立案し、緊急時は随時検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には本人の言葉、行動、表情などできるだけ記録し、ケアの改善や見直しに活かせるようにしている ケアプランを見ながら記録を書く習慣を訓練している(介護番号記載)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望や要望に対して、可能な限り沿えるように話し合い、実践に向けて取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつではあるが地域との関りは再開している 包括の定期連絡時には現状の報告を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に合わせて受診し検査や情報を伝えるようにしている	医療機関は利用者、家族の意向を重んじており、現在は全利用者が運営母体がかかりつけ医として月2回の往診を受けている。専門科医への受診は職員が支援し、初診のみ家族が同行し情報は共有している。2名の看護師職員が交代で常駐し健康管理は適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の訪問看護では、日々の入居者様の様子を共有し、適切な看護、医師への情報伝達と指示受けを行っている、職場内の看護職員とも積極的に情報交換し、医療、介護の連携がしっかりとれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にあたっては直後に医療相談室と連絡を取り合い情報共有を行う ご家族が安心してできるように情報を共有し退院に向けての相談支援をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については入居後3ヶ月頃に、一度ご家族、ご本人に伺い書面に残します その後重度化した場合に適宜現状の考えを伺い、ホームとしてできることを説明する機会をもうけている	重度化や終末期における指針を入居時に説明し、さらに3か月経過後に「終末期の覚書」を利用者、家族と共に作成している。看取りケアの経験は無いが、現在、手引書を作成し、職員は看取り研修で死生観やスキルを身につけるなど、実践に向けて体制の整備を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や救急対応は多く、シミュレーションや日々のミーティングで話し合う場を設け、優先順位や応急手当、初期対応について共有している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月シミュレーションの時間をつくり、訓練し実際の事故の情報に合わせて適宜はなしあっている 年2回の避難訓練や地震の訓練などを継続している	年2回の火災避難訓練に加え地震、津波避難訓練を計画し、今年度は6月に消防職員立ち合いで、日中火災避難訓練を実施している。毎月、避難場所の確認、地震や津波、停電、断水備蓄の確認など様々な災害に対するシミュレーション訓練を行い防災意識を高めている。	業務継続計画書を整備し、災害対策を講じているが、事業所全体としての情報の共有、役割分担、対応手順など、更なる協力体制の強化を検討しているので、その取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや、対応方法については常日頃から話し合っている 接遇の観点、個別ケア、プライバシー保護、虐待には特に毎日のように話し合い評価している	職員は様々な研修から接遇の基礎を学び、利用者の尊厳を傷つけず配慮の行き届いたケアを提供している。同性介助、申し送り時や個人情報の管理にはプライバシーマナーを意識し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアを重視してできることを見極め、自己決定ができるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは個性があり、自己決定の中ですすめるようにしている 自分で時間を調整できない方は、誘導や都度選択ができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面ではヘアブラシなどさりげなく用意し自分の意志で整髪ができるようにしている 一緒に衣服を選びながらおしゃれを感じられるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別に好みなどを見極め食事を提供している 要介護度が高くなっている為準備や片付け調理などは実施できていない状況である	系列事業所共通のメニューは季節感や栄養のバランスを考慮しており、収穫した野菜も一緒に調理し食卓を彩っている。行事食や誕生会では赤飯や寿司が喜ばれ、おやつにはホットケーキにおしるこ、クリスマスにはバイキング料理を取り入れ、各自好きな物を皿に盛り楽しんでる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自宅での習慣や今までの食生活を理解し時間帯や量などを加減しバランスよく摂れるように見極めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯の洗浄・消毒の支援と、自歯のある方への口腔ケア(マッサージ)を行っている 不具合は早期に発見し、歯科受診をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔や失禁の有無など個別で評価し対応している 尿意便意を確認しながら、清潔保持とそれぞれの自立に向けて考え支援している	食事前後や本人のタイミングを考慮しつつ、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を基本に、時には二人介助で支援している。夜間ベッド上での交換、ポータブルトイレの利用、衛生用品の使用では、経済的、精神的負担となり得ることも有り、生活状況に注かし見極めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動等精査し、必要であれば内服薬など、個別に対応している 食材の工夫、PT介入による生活リハビリの継続をすすめている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活歴を見極め、気分良く入浴ができるように工夫している 本人の希望を伺いながら入れるように支援している	週2～3回の入浴を目安に毎日柔軟に対応し、二人介助、同性介助を取り入れている。介助方法や入浴方法は利用者状況に沿って行い、湯加減、入浴剤、飲み物、ヒートショック予防など快適な入浴を支援し、寛ぎの時間を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状に合わせて用途に合わせて理解ができるように、一覧表を用意し確認しながら服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、得意分野を理解し、個別に活躍ができるように場面を提供している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は介護度や体調などで、なかなか積極的に外出は出来ないが、気候などを鑑み外気浴などを行っている 電話の取次ぎ、窓越し面会、リモート面会等積極的に行っている ベランダ菜園では手入れや、収穫を楽しみました	コロナ禍ではミニ運動会やお楽しみ会などの屋内行事に加え、玄関先での日光浴や花火大会、敷地内散歩、ベランダでプランター菜園の作業など感染症対策を講じながら気分転換を図っている。規制緩和に伴い町内会祭りへの参加や個別の花見ドライブなど、徐々に外出場面を工夫し、心身の活性につなげている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金に執着したり、家族の希望もないので所持している方も少額です、体調もあり買い物は同行できていない 必要に応じて公衆電話を使ったりとできる範囲で対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方は手紙を書き、切手を貼って投函し、返信に喜ぶ姿があります		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペース、温度や明るさ、時刻による光の具合などに配慮し、窓のカーテンを開放して季節の移り変わりを感じられるように支援している	共用空間は清掃が行き届き、温湿度や採光、臭気等にも気を配り、快適な居場所を整えている。居間にはクラシックな家具、食卓テーブルとソファコーナーが配置され、観葉植物、日めくりカレンダー、献立表、通信、利用者と合作の季節の飾りつけが施され、寛ぎの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は大まか決まっているので、自分の居場所に認識具合が確認できます 行動を止めることなく、目視しながら本人の自由に室内を往来していますが、危なくなりそうな時はさりげなく軌道修正など行っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からは馴染みの調度品や写真、家具などを持ち込み、安心できるように配慮をしている 家族にも入居時にお願している	7畳ほどの居室には、ベッド、チェスト、カーテンが備えてあり、入居時には馴染みの家具や調度品を持ち込み、家族写真、自作の陶芸品、手芸品など好きな物に囲まれて心落ち着く空間となっている。重度化時は動線に考慮し、安心、安全を優先した家具の配置を検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に導線を考え、生活リハビリが継続的に実践できるようにトイレ内手すりの設置、支援を実施している		